

ねくさす通信

Vol.8

【発行】令和4年10月20日

地域活動ホーム ガッツ・ビーと西

横浜障がい相談システム ねくさす

【問い合わせ】

〒220-0051 横浜市西区中央 1-18-22-103

TEL045-594-7681 FAX045-594-7682

『ねくさす』は何を相談できるの？ ④後見的支援

【横浜市障害者後見的支援制度とは？】

ご利用者の日常生活の見守りを行い、将来の希望や不安などご本人の想いを伺い、その方が願う地域での暮らしを実現する方法と一緒に考えていきます。身体介助や家事援助などの直接的な支援はいたしません。また成年後見制度とは異なり、財産の管理や契約行為なども行いません。

ご本人の“意思決定”を支援し「生涯にわたり つながり続けること」を目的とする伴走型支援です。

【どんな方が対象？】

障害手帳の有無は問わず、実施区にお住まいで18歳以上の障がいのある方。
制度ご利用に費用はかかりません。

【例えば】西区在住のKさん、20代女性、知的障害。生活面は、ほぼ全て自立されています。



Kさん(20代)

私は普段、障害者雇用で就労しています。
ちょっとした悩みや相談を誰かに聴いて欲しい時があります。
職場の同僚や、家族には話しにくいこともあったり…
もやもやする気持ちを聴いて、受け止めてくれる人がいてくれたらなあ…。

今は特に問題もなく生活出来ていますが、高校卒業後は相談を受け付けてもらえる所がなく、本人を見守る体制が薄れつつあるのがとても心配で、ゆるやかに繋がり続けられる先が欲しいです。

将来に向けて、親以外の誰かに自分から相談出来る力を身に付けてもらいたいです。



お母様(50代)

【その後】後見的支援制度利用の経過から



Kさん(20代)

自分の希望で、ペースは月に1回。仕事帰りにねくさすに寄って、後見的支援のスタッフと面談をしています。職場での出来事や、趣味の話、何でも話せて何でも聴いてもらえるので、ちょっとした気分転換になっています。

月に一度、娘とは別に家庭に訪問してもらい、家族からの話を聴いてもらいます。
今までの子育てを振り返る良い機会にもなり、情報の整理が出来ました。

今後は、成年後見制度の利用も視野に、徐々に将来の準備を整えて行きたいです。



お母様(50代)

新たなご希望を伺い、今までお話いただいてきたご本人の情報を集約する形で、『あんしんノート』の作成をご提案し、一緒に取り組むことになりました。

* 『あんしんノート』については、また次回ご紹介します。

ひとり暮らし体験！ ねくさす地域生活支援室

令和2年5月にねくさす地域生活支援室が誕生し、2年以上が経ちました。これまで、18人、99泊（共に延べ数値）のご利用をいただき、また、多くの方に見学や日帰りの体験もしていただきました。利用後、実際にアパートでひとり暮らしを始めた方もいます。

将来のひとり暮らしについて考えたい方は、まずは見学から始めてみませんか？



部屋は狭いが、実際のひとり暮らしのイメージができた。

コンビニやスーパーが近くにあり、便利だった。また利用したい。

よく眠れた。近隣も静かで、自分の好みで真っ暗にして眠れた。

フライパンや食器などそろっていて便利だった。



IH調理器を初めて使った。加熱されているか不安だったが、料理ができて嬉しい。



トイレとお風呂が一緒のユニットバスは初めてだったが、支援者が手伝ってくれて何とか入れた。

携帯で二次元コードを読み取ると、動画で部屋の様子を見られます♪♪



【ねくさす地域生活支援室の概要】

利用対象者：将来的な暮らしの場について検討したい、障害のある方

※ 横浜市内に居住であれば、西区以外の方も利用できます。

宿泊体験料金：1,000円/泊（宿泊費・光熱水費込み） ※見学無料

連絡先：TEL045-594-7681、FAX045-594-7682

将来？ひとり暮らし？今が忙しいからなあ…、あ、IH調理器あるあるだ！などなど。みなさんは今号紙面の内容に対して、どのような感想をお持ちでしょうか？色々とお聞かせいただけたら、うれしいです。

🍌 次回は、1月発行予定です！

